

選択科目（2年次）**外科**（選択必修科目の項→p36を参照）

I. 担当する診療科

外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科

II. 研修期間

1ヶ月以上

III. 指導スタッフ

| | 氏名 | 職名 | 医師登録年月 | 指導医講習 |
|---------|-------|---------|--------|-------|
| 責任者・指導医 | 吉光 裕 | 副院長 | 1988.5 | ◎ |
| 指導医 | 前多 力 | 外科部長 | 1997.5 | ◎ |
| | 新保 敏史 | 外科医長 | 2007.4 | |
| | 材木 良輔 | 外科医員 | 2012.4 | |
| | 佐川 元保 | 外科非常勤医師 | 1982.5 | ◎ |

選択科目（2年次）**小児科**（選択必修科目の項→p39を参照）

I. 担当する診療科

小児科

II. 研修期間

1ヶ月以上

III. 指導スタッフ

| | 氏名 | 職名 | 医師登録年月 | 指導医講習 |
|---------|------|-------|--------|-------|
| 責任者・指導医 | 米谷 博 | 小児科医長 | 2002.5 | ◎ |

選択科目（2年次）**産婦人科**（選択必修科目の項→p41を参照）

I. 担当する診療科

産婦人科

II. 研修期間

1ヶ月以上

III. 指導スタッフ

| | 氏名 | 職名 | 医師登録年月 | 指導医講習 |
|---------|-------|--------|---------|-------|
| 責任者・指導医 | 西本 秀明 | 産婦人科部長 | 1977.12 | ◎ |

選択科目（2年次）**精神神経科**（選択必修科目の項→p45を参照）

I. 担当する診療科

精神神経科

II. 研修期間

2週間以上

III. 指導スタッフ

| | 氏名 | 職名 | 医師登録年月 | 指導医講習 |
|---------|-------|---------------|--------|--------|
| 責任者・指導医 | 佐伯 善洋 | 小松市民病院精神神経科部長 | 2007.4 | ◎（見込み） |

VII. 行動目標 (→p12)

VIII. 経験目標 (→p13~20)

A. 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 医療面接：患者・家族との信頼関係を構築し、診断治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、
 - ・医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解できる。
 - ・病歴の聴取と記録ができる。
 - ・患者・家族への適切な指示・指導ができる。
- (2) 基本的な身体診察法：病態の把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録するために、小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む）ができ、記載できる。
- (3) 基本的な臨床検査：病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体観察から得られた情報をもとに必要な検査を解釈するために、次の検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。
一般尿検査、血算・白血球分画、血液生化学的検査、単純X線検査
- (4) 基本的治療法：基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、
 - ・療養指導（安静度・体位・食事・入浴・排泄・環境整備を含む）ができる。
 - ・薬剤の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。
 - ・基本的な輸液療法ができる。
- (5) 医療記録：チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、
 - ・診療録をPOSに従って記載し、管理できる。
 - ・処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
 - ・診断書、死亡診断書、死体検案書他の書類を作成し、管理できる。
 - ・紹介状・紹介返書を作成でき、管理できる。
- (6) 診療計画：保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診断書を作成し、評価するために、
 - ・診療計画（診断・治療・患者家族への説明を含む）を作成できる。
 - ・診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。
 - ・入退院の適応を判断できる。
 - ・QOLを考慮にいれた統合的な管理計画へ参画できる。

B. 経験すべき症状・病態・疾患 (→p16~18の一覧表参照)

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を行う能力を獲得するために、

- ・緊急を要する以下の症状・病態を経験し、初期治療に参加できる。
意識障害、急性呼吸不全、急性腹症、急性感染症、急性中毒、誤飲・誤飲
- ・経験が求められる疾患・病態（波線については自ら経験する）
小児痙攣性疾患、
小児ウイルス感染症（麻疹・流行性耳下腺炎・水痘・突発性発疹・インフルエンザ）、
小児細菌感染症、小児喘息、先天性心疾患

C. 特定の医療現場の経験

- ・周産・小児・生育医療
- 1) 周産期や小児の各発達段階に応じた適切な医療の提供ができる。
 - 2) 周産期や小児の各発達段階に応じた社会心理面への配慮ができる。
 - 3) 虐待について説明できる。
 - 4) 学校・家庭・職場環境に配慮した地域との連携に参画できる。
 - 5) 母子健康手帳を理解し、活用できる。